

Indonesia

Philippines

Vietnam

Thailand

Myanmar

Malaysia

Cambodia

Laos

Singapore

東南アジア

がわかる教科書

Vol.1

はじめに

世界経済の中で急速な成長を遂げてきている東南アジア。今回取り上げる9カ国（インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイ、ミャンマー、マレーシア、カンボジア、ラオス、シンガポール）の人口を合計すると5億5千万人以上にもなり、単なる生産拠点としてだけでなく、市場としても大きな存在になってきています。日本のビジネスマンにとってこの地域が、さらに身近で重要な存在になることは間違いありません。

実際に生産拠点として、また市場として、関わりのある企業は増えてきており、日本企業だけでなく中韓をはじめ他国の企業も進出してきています。地理的にも経済的にも近くて重要な地域、それが東南アジアなのです。

また、本テキストでも取り上げましたが、東南アジアはほとんど親日国ばかりといって良いくらい、日本という国や日本人に良いイメージを持っている人たちの多い地域でもあります。

それなのに、私たち日本人は東南アジアをひとくくりとして考えがちで、それぞれの国のことをあまり詳しく知らない人も多いのではないのでしょうか。

東南アジア諸国は、確かに「高温多湿」「多民族」「多宗教」といった共通点を持った国で主に構成されていますが、国ごとに見ていくと、非常に個性的で興味深い国ばかりです。ぜひその「共通点」と「相違点」を、講座を通じて学んでみてください。

東南アジアをめぐる20世紀は、いわば混乱を極めた世紀でもありました。そのような時代を乗り越え、工業化、先進国化を推し進める東南アジアに、今後の世界経済のけん引役になることが期待されています。

今回の学習を機に、東南アジアの国々や人々のこと、そして日本と東南アジアの未来について考える機会になれば幸いです。

ではまず第1巻で、東南アジア全体について概観していきましょう。

C O N T E N T S

—— 東南アジアってどんな地域？ ——

Lesson 1.	人口から見る東南アジア	8
Lesson 2.	東南アジアの言語と教育	12
Lesson 3.	東南アジアは世界宗教の見本市？	14
Lesson 4.	経済から見る東南アジア	18
Lesson 5.	世界と結ばれる東南アジア	22
Lesson 6.	東南アジアの政治体制は民主主義が主流	24
Lesson 7.	東南アジアの域内統合	26
Lesson 8.	東南アジア諸国の紛争	28
Lesson 9.	東南アジア諸国の敵対度	30
Lesson10.	第二次大戦期の東南アジア諸国と日本	32
Lesson11.	日本と東南アジア、食習慣の違い	34
Lesson12.	東南アジアの華僑・華人	36
Lesson13.	東南アジアにいる日本人の暮らし	38
Lesson14.	日本で暮らす東南アジア人	40
Lesson15.	日本のことは好き？	42

本講座の学習の進め方

1

ヵ月目

テキスト第1巻を学ぶ

東南アジアってどんな地域？

第1回提出課題に取り組む／提出

2

ヵ月目

テキスト第2巻を学ぶ

第1章 …… インドネシア編 第2章 …… フィリピン編

第3章 …… ベトナム編 第4章 …… タイ編

第2回提出課題に取り組む／提出

3

ヵ月目

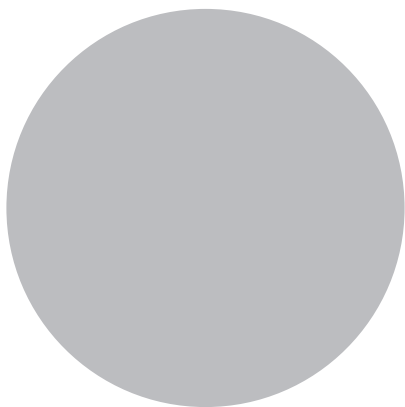
テキスト第3巻を学ぶ

第1章 …… ミャンマー編 第2章 …… マレーシア編

第3章 …… カンボジア編 第4章 …… ラオス編

第5章 …… シンガポール編

第3回提出課題に取り組む／提出



東南アジアって どんな地域？

Southeast ASIA

人口から見る東南アジア

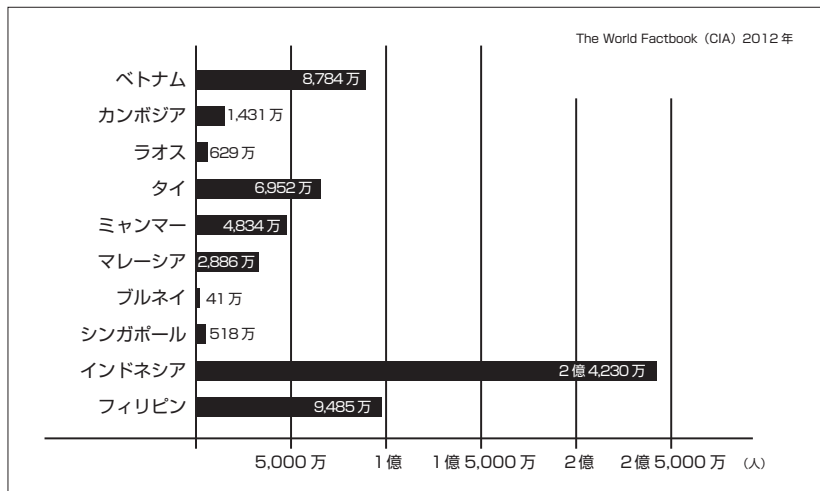
Point 1 世界第4位の人口大国から40万人の小国までさまざま。

Point 2 所得水準の低い国では依然多産多死型の社会である。

まず知っておきたい基本情報

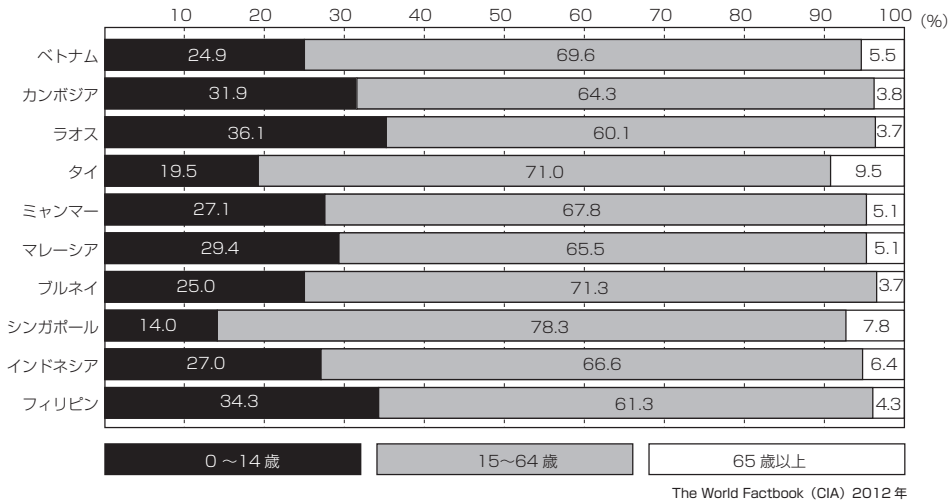
	面積 (平方 km)	首都	通貨
ベトナム	331,212	ハノイ	ドン
カンボジア	181,035	プノンペン	リエル
ラオス	236,800	ビエンチャン	キップ
タイ	513,115	バンコク	バーツ
ミャンマー	677,000	ネピドー	チャット
マレーシア	330,338	クアラルンプール	リンギット
ブルネイ	5,765	バンドルスリブガワン	ブルネイ・ドル
シンガポール	699	シンガポール	シンガポール・ドル
インドネシア	1860,359	ジャカルタ	ルピア
フィリピン	300,000	マニラ	ペソ

国別人口



東南アジアの国家の規模はさまざまで、世界第4位の人口大国であるインドネシアから、人口40万人のミニ国家であるブルネイまでが含まれています。

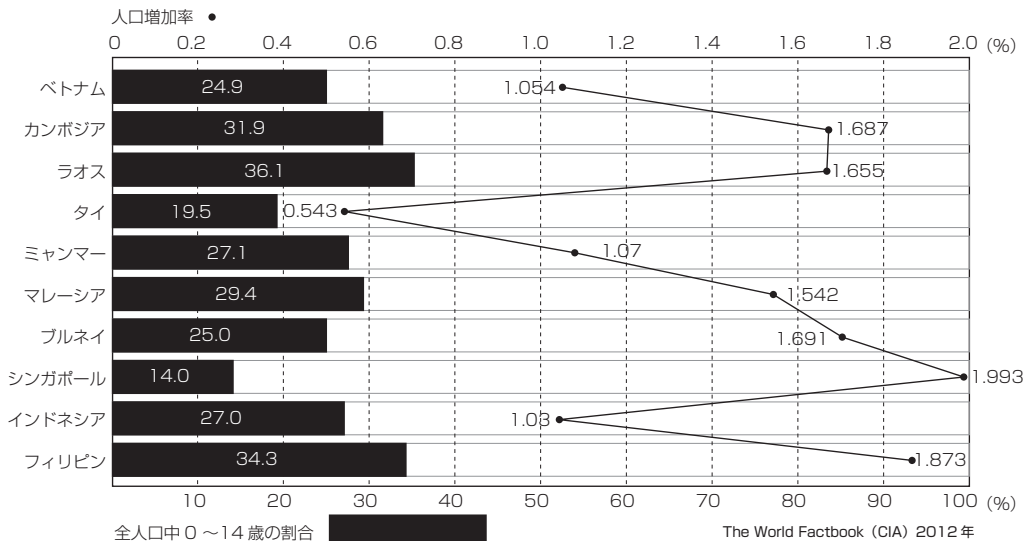
年齢別人口構成



年齢別人口構成はどこの国も似たような数値を示していますが、一部にはばらつきも見られます。カンボジア、ラオス、フィリピンでは子供の数が非常に多く、タイやシンガポールでは子供が少なく老人が多くなるという傾向が出始めています。

人口増加率

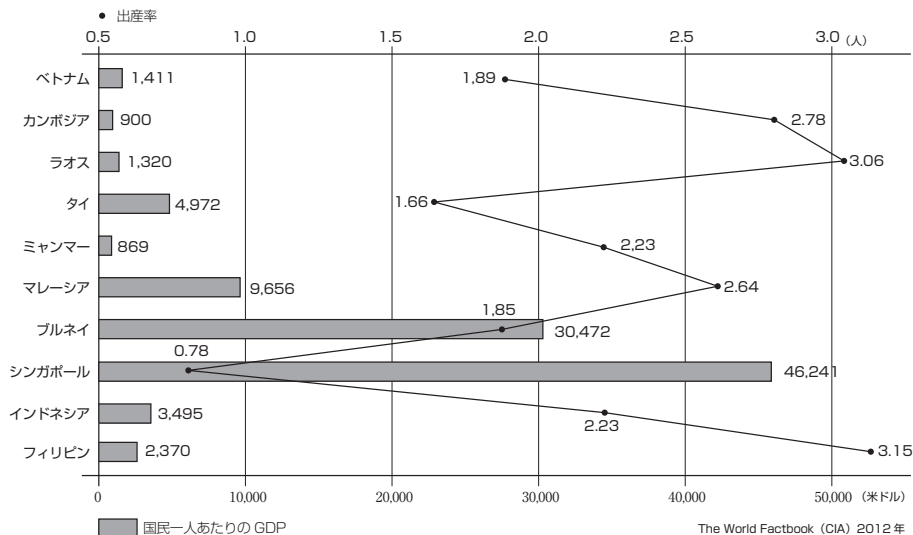
では次に人口増加率を見てみましょう。



やはり子供の数が多くカンボジア、ラオス、フィリピンでは人口増加率も高くなっています。意外なのはシンガポールで、年齢別人口構成からは少子高齢化傾向が伺えますが、人口増加率そのものは東南アジアで最高値です。域内では所得水準の高いマレーシアやブルネイでも、人口増加率は比較的高いまです。一方、タイでは人口増加の鈍化傾向がはっきりあらわれています。

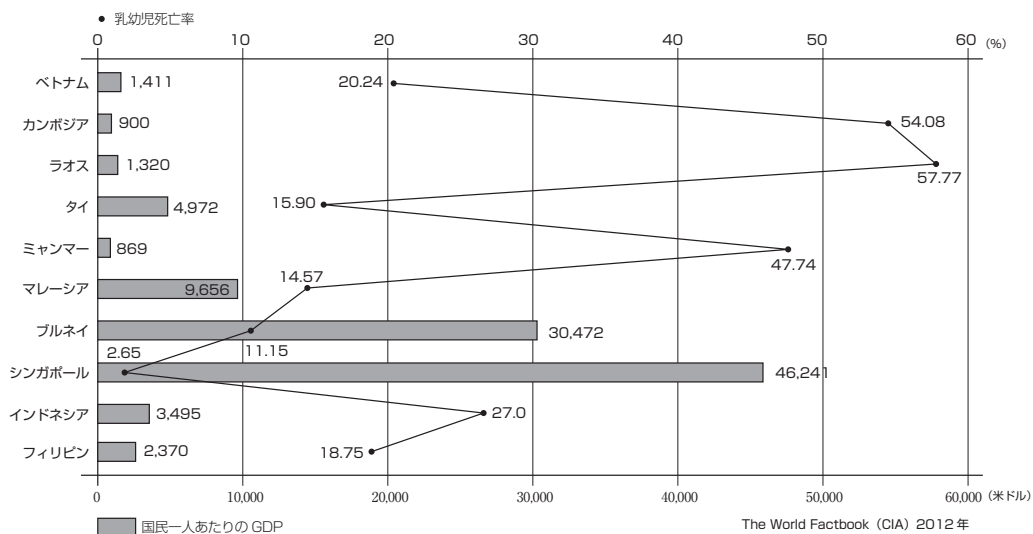
出産率

これは女性一人が何人の子供を産むかという数値です。



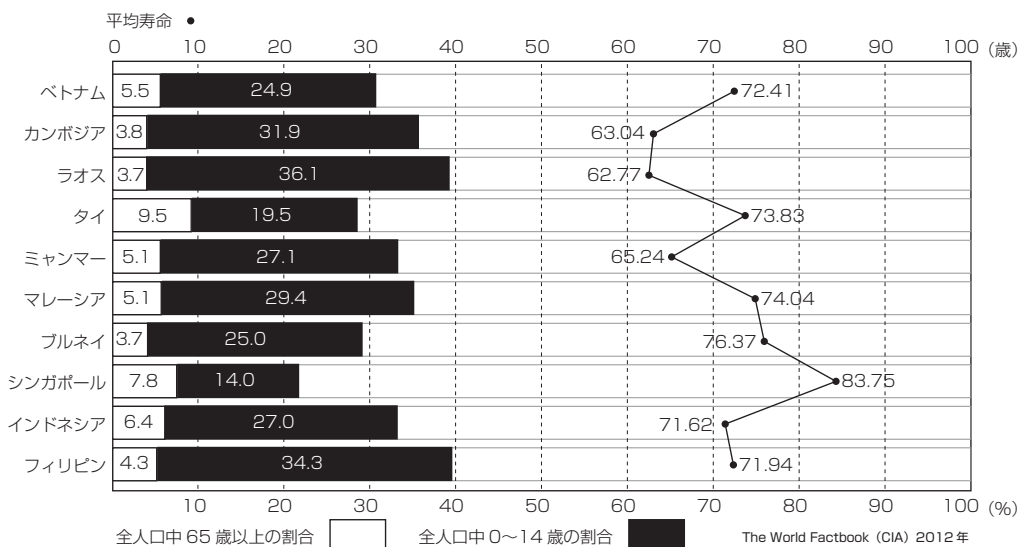
突出して数値が低いのがシンガポールで、タイ、ブルネイ、ベトナムがそれに次ぎます。マレーシアは比較の数値が高めで、経済の中進国化にもかかわらず出産率はミャンマーより高くなっています。一方ベトナムは、ブルネイとほぼ同水準の出産率になっています。同じ旧社会主義国のカンボジア、ラオスに比べ、ベトナムでは一部で先進国型の傾向が出始めているようです。カトリック圏のフィリピンでは妊娠中絶ができないため子供が多くなる、という俗説は、このデータを見る限りは正しいようです。

乳幼児死亡率



一見してわかるように、この乳幼児死亡率は域内の所得水準をかなりストレートに反映しています。顕著に数値が高いのがカンボジア、ラオス、ミャンマーで、これはこの3か国の所得水準の低さとほぼ一致します。これらの国での子供の多さから考えると、依然として多産多死型の社会であると言えます。一方でシンガポール、ブルネイ、マレーシア、タイなどの中進国・先進国では、乳幼児死亡率が低くなっています。特にタイやシンガポールでは、少なく産んで大事に育てる、という社会への転換が進んでいるようです。

平均寿命



やはりここでも、カンボジア、ラオス、ミャンマーの数値の低さが目を引きます。これらは65歳を越えて生き続けることが容易ではない社会であり、したがって高齢化問題はまだまだ先と言えそうです。シンガポールやタイに関しては、平均寿命が長くなったことが高齢者の人口比を押し上げていると言えそうです。マレーシアやブルネイでは、同様に平均寿命が長いのですが、子供の多さが全人口に占める老人の比率を引き下げているようです。

東南アジアの言語と教育

Point 1 識字率も就学率も高い東南アジアには、質の高い労働力が揃っている。

Point 2 東南アジアは多言語社会であり、公用語も各国ごとさまざまである。

意外と高い識字率と就学率

国語を統一し、初等義務教育を普及させるというのは、当たり前のことのように見えますが、それを実現するのは大変なことです。わが日本でも、明治維新後の国語統一では大きな論争がありましたし、初等教育に対しても特に農村では当初はなかなか理解を得られませんでした。新興国が多い東南アジアでは、さらに脱植民地化という課題も加わり、またどの国も言語の異なる少数民族を多く抱えているので、それがどのくらい大変なことなのかは想像できるでしょう。

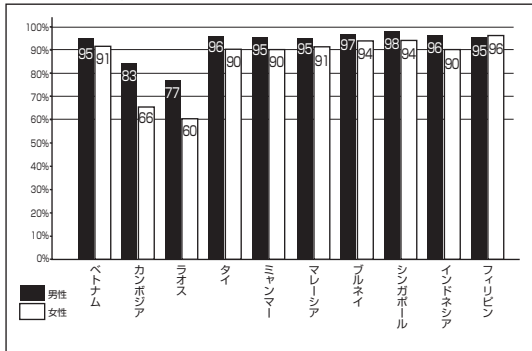
東南アジアのそうした悪条件を考慮に入れた場合、その識字率（15歳以上）の高さはむしろ驚くべきと言えます。男女ともに、識字率が90%を下回っているのは、激しい内戦を経験したカンボジア（男性83%、女性66%）とラオス（男性77%、女性60%）だけです。

この識字力の高さは、就学率の高さを反映しています。初等教育については、ラオス（85%）とミャンマー（84%）を除けばいずれの国でも90%を越えています。このように、経済水準とは無関係に全般に識字率が高いのが東南アジアの特徴で、これはようするに、質の高い労働力の粒が揃っているということでもあります。

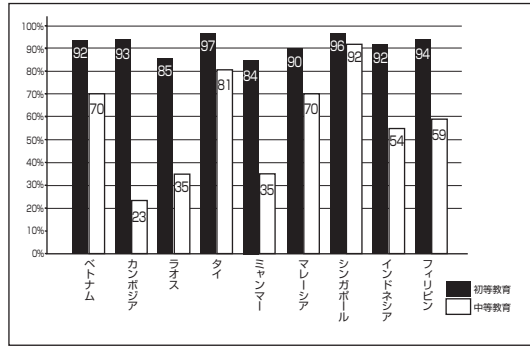
識字率

15歳以上の総人口に対する、15歳以上の識字者人口の比率を示す。ただし識字者の基準については多少のばらつきがある。

東南アジアの成人識字率



東南アジアの就学率



シンガポールは公用語が4つある

タイ語とラオ語というのは、実は方言差の関係にある言語です。タイ国の中部地方の方言が現在のタイの公用語となっていますが、それ以外にも地方ごとに方言があります。そのうち東北方言というのがラオ語とほぼ同じ言語です。東北タイの人口はラオスよりも大きいので、実はラオ語の話者人口がいちばん多いのはラオスではなく東北タイということになります。またマレーシア語、マレー語、インドネシア語というの、ほぼ同じ言語です。借用語など一部の語彙が違うだけで、相互に意思の疎通が可能でです。

識字率と初等教育就学率とが東南アジアで比較的高いということは、国家の公用語を知っておけば大抵どこに行っても用が足りるということを意味します。しかし東南アジアのいくつかの国では、公式に謳われている公用語と、実際に通用する言語との間に落差があるのも事実です。これは教育媒体となる言語についても言えることです。ベトナム、タイ、ミャンマー、ラオス、カンボジアでは、おおむね公用語がそのまま教育言語になっており、町の看板もそのほとんどが公用語によるものです。それに対しマレーシアでは、行政用語や高等教育の用語はマレー語ということになっていますが、初等教育レベルでは中国語、タミル語などの民族学校が並存しています。また異なる民族の間では英語が一種の共通語として用いられる傾向が残っています。シンガポールでは各民族に配慮して四つの公用語が定められています。学校教育や行政の場で用いられるのはほぼ一元的に英語です。ブルネイやフィリピンでは、国語や社会の授業はその国の公用語であるマレー語やフィリピン語が使われますが、理科室科目では英語が用いられています。実際にフィリピンでは公の場での看板はその圧倒的多数が英語です。インドネシアの場合、多くの島と多くの言語から構成される国である点はフィリピンと同じですが、旧宗主国の言語に頼らず自前の国語統一を行ってきました。現在は小学校の前半では民族語を教え、後半以降はインドネシア語による教育を行っています。

	公用語	教育制度
ベトナム	ベトナム語	5-4-3
カンボジア	カンボジア語	6-3-3
ラオス	ラオ語	5-3-3
タイ	タイ語	6-3-3
ミャンマー	ビルマ語	5-4-2
マレーシア	マレーシア語	6-3-2
ブルネイ	マレー語	6-3-2
シンガポール	マレー語、英語、中国語、タミル語	6-4-2
インドネシア	インドネシア語	6-3-3
フィリピン	フィリピン語、英語	6-4

東南アジア諸国の公用語と教育制度

公用語と教育用語

公用語 official language とは行政文書で正式に使われる言語のこと。これは学校の教授用語 medium of instruction と同じでない場合がある。この傾向は旧植民地や多民族国家において特に強い。

東南アジアは世界宗教の見本市？

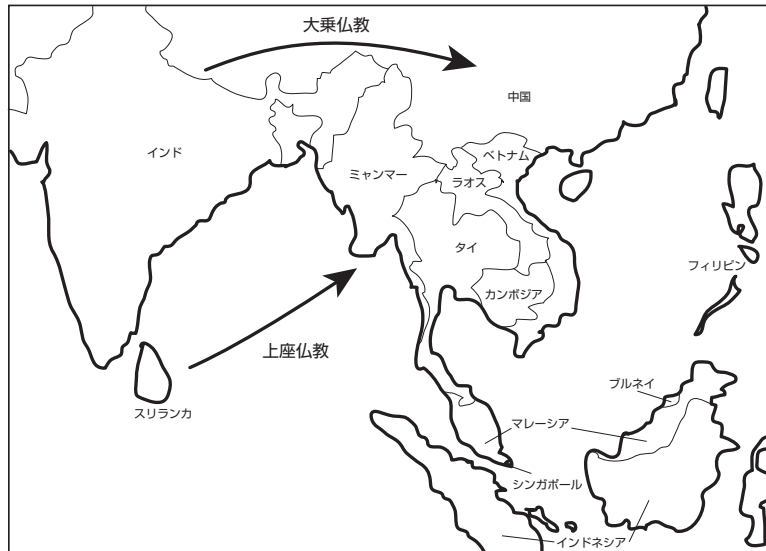
Point 1 世界の大宗教はほとんど東南アジアでも見ることができる。

Point 2 キリスト教圏と言えるのは、スペインの植民地とされたフィリピンのみ。

東南アジアは世界宗教の見本市だと言われることがあります。仏教、キリスト教、ヒンドゥー教、イスラム教など、世界の大宗教のほとんどを見ることができるためです。この宗教の違いというのは、我々日本人が考える以上に東南アジアのそれぞれの国の違いに関わっています。

東南アジアに伝わる2つの仏教

まず仏教圏を見てみましょう。仏教は上座仏教と大乘仏教に大きく分けることができます。インドから北方経由で中国から日本へと伝わったのが大乘仏教で、スリランカから東南アジアに伝わったのが上座仏教です。両者の違いを簡単に言うと、仏教が成立した当時のやり方のかたくなに守り続けているのが上座仏教で、大乘仏教というのはそれに対する改革派のグループです。したがって上座仏教の戒律は、大乘仏教（特に日本の）よりはかなり厳しく、結婚や飲酒はもちろん、正午以降の食事も禁じられており、女性の体に触れたり隣に座ったりすることも許されません（それでタイのバスには僧侶専用席があるのです）。僧侶が読むお経も、パーリ語と言って、古代のインドで使われ現在は死語になった言語が今でも使われています。この上座仏教が主流を占める国は、東南アジアではラオス、カンボジア、タイ、ミャンマーの4か国です。

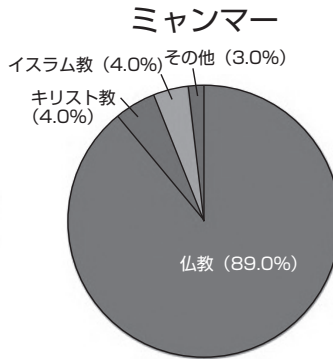
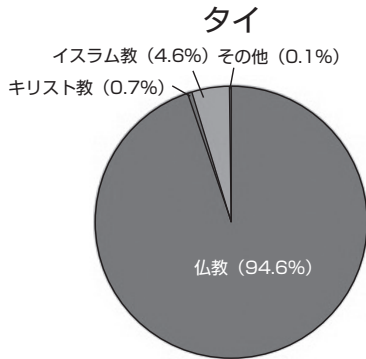
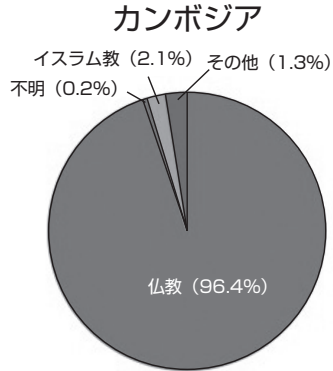
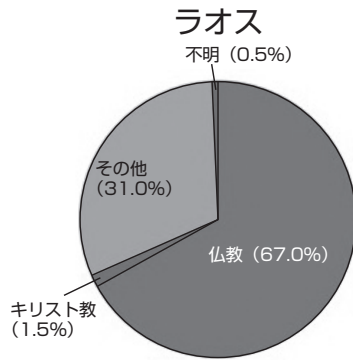


2つの仏教の伝来ルート

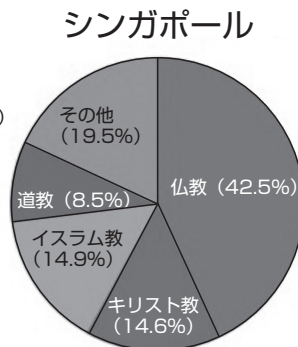
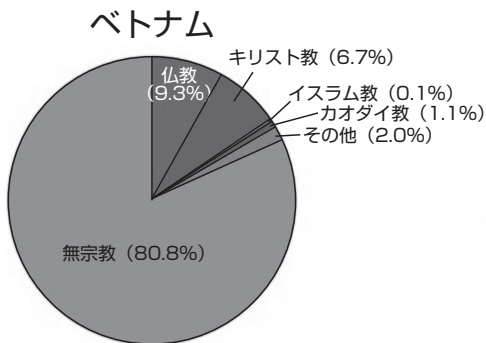
上座仏教と大乘仏教

両者の違いを一言でいえば、上座仏教は出家者の自力救済を重視するのに対し、大乘仏教では衆生の救済を重視する点にある。

各国の宗教分布



仏教はベトナムにも多いですが、こちらは大乘仏教が主流で、漢文のお経が使われたりするので、日本や中国の仏教に比較的近いです（ベトナムは社会主義体制を反映し「無宗教」が最多となっていますが、これは日本と同様、特定の宗教に属さず無差別に神仏を拝む人を含んでいます）。シンガポールも中国系の人口が国民の70%以上を占めているので、中国式の大乘仏教が広まっています。またベトナム、シンガポールの双方において、キリスト教も無視できぬ勢力を占めています。



The World Factbook (CIA) 2012年

社会主義体制と宗教

共産主義思想は原則として宗教を資本主義に特有の現象として否定するが、現実には社会主義体制で宗教の存在が認められる場合も多い。ただしそこでは、信仰の自由とあわせて不信仰の自由が強調されるのが社会主義に特有である。